



東陽病院 院長 伊藤 文憲

性、腹痛が続き摂食不良し、腹性の粘血便を主訴とし、腹痛が続き摂食不良

※東陽病院の休日当番日

6月20日(日) 午前8時30分～午後6時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎④13335

光町のみなさんこんにちは。今回は大腸の良性的慢性の病気の話です。臨床症状の軽い大腸機能異常から治療に難渋する炎症性腸疾患まで多彩です。大腸機能異常とは注腸X線検査や大腸の内視鏡検査により大腸の粘膜面には何ら病変が認められず、内腔の狭窄・拡張などもなく且つ腹痛や便秘と下痢を繰り返す病気で、近年この疾患が増加しています。リストラや家庭内のストレスが誘因と考えられており、治療に抵抗する例が多く見られています。

この疾患の代表として過敏性大腸炎(過敏性腸症候群)があります。大腸は正常では生理的な蠕動運動により内容物を小腸から直腸に送り、その途中で水分の吸収を行っています。その機能がうまく働かないと便秘や下痢を繰り返す様になります。その時の症状に応じた対症療法では逆効果になることもあります。最近ではストレスに対する安定剤の投与と大腸の動きを調整する薬の併用が有効です。

難治性の大腸炎には潰瘍性大腸炎とクローン病があります。潰瘍性大腸炎は粘膜の病変が主体で、しばしば潰瘍を形成する大腸の炎症性疾患です。直腸を初発として進行すると大腸全体に広がります。約7万人が罹患しています。原因は不明ですが、何らかの大腸局所の免疫異常が関与するとされています。慢性の粘血便を主訴とし、腹痛が続き摂食不良

健康への



シリーズ 126

大腸の病気(Ⅲ)

となり栄養障害を引き起こします。治療として栄養療法(クローン病で述べます)と副腎皮質ホルモンや抗菌薬のサラゾピリンにより一時的な緩解状態にすることが可能ですが、徐々に進行し再発を繰り返す、免疫抑制剤の使用や重症例では血球成分除去療法などが行われることもあります。また約3%に粘膜出血がコントロール困難になり大量の下血が起こり外科的な大腸切除が行われています。

もう一つの難治性腸疾患はクローン病です。約1万9千人が罹患しています。潰瘍性大腸炎が直腸から徐々に進行するのに対してクローン病は大腸内の離れた位置に病変が散在するのが特徴です。小腸や食道などにも発症します。粘膜面だけではなく筋肉層にも炎症が波及し、内部を狭窄して通過障害を起こし強い腹痛が起こります。出血はやや少ないようです。本疾患も腸管粘膜の免疫異常が原因と考えられています。

治療法として通常の食事では増悪を繰り返す場合には、栄養療法として消化された栄養物の経口摂取が行われます。効果が見られない時には点滴による完全静脈栄養法が行われることもあります。薬物としては潰瘍性大腸炎と同じく副腎皮質ホルモンやサラゾピリンの投与が行われます。難治例では免疫抑制剤や血球成分除去療法も行われます。両疾患とも原因の解明と画期的な治療を目指した研究が鋭意行われています。

IT講習会

第1回パソコン初級者講習

パソコンの初級者を対象としたIT講習会を開催します。

- 日 程** 7月8日、15日、22日、29日、8月5日の毎週木曜日 午後1時30分～4時30分
- 会 場** 図書館2階学習室
- 対 象 者** 町内在住・在勤者で5日間受講できる方。昨年度に受講していない方を優先します。
- 定 員** 20名
- 内 容** 図形作成、インターネット体験等の基本操作。
- 申 込 み** 6月22日(水)から図書館で受付します。定員になり次第締め切ります。
- そ の 他** 受講料は無料です。
第2回(同内容)は9月頃に予定しています。

夏休み子ども科学講座

『光町の夜空からロマンをもとめて』

星座の早見盤を手作りして、夏の夜空を観察してみませんか。

プラネタリウムの解説をしている先生から、宇宙や星座のお話が聞けます。

- 講 師** 森壽正幸氏(銚子市青少年文化会館指導主事)
- 日 時** 7月22日(木) 午後2時～3時
- 場 所** 図書館2階ハイビジョンホール
- 対象・定員** 小学3年生以上 60名
- 申 込 み** 図書館カウンター、または電話でお申し込みください。



=町立図書館=
☎④3311

休館日

6月7日(月)、14日(月)、21日(月)、28日(月)、7月5日(月)